

今年度の指導の重点		津山っ子の学びを高める “3つの提案” 6つの取組	
○教育目標 「豊かな人間性の育成」「学び合い、磨き合う生徒の育成」		□学習や生活のルールを全教職員で共有して児童生徒や保護者へ提示している	当初 [B] 年度末 [ ]
○指導の重点 『鍛える』『考える』『つながる』	1 基礎学力の定着と学び合いによる学力向上 2 規範意識の向上と道徳心の育成 3 生徒会活動の活性化による主体性の育成 4 個別の課題にあった支援の充実 5 保護者・地域との連携の推進	□授業の中で学習のめあてを持たせめあてについて振り返る場を設定している	当初 [C] 年度末 [ ]
		□言語活動充実のために話し合う活動を大切にしている	当初 [B] 年度末 [ ]
		□学習のねらいに応じてI・C・T活用等による多様な学習を工夫している	当初 [D] 年度末 [ ]
		□授業で学んだことを振り返ることができるような家庭学習の仕方を提示している	当初 [D] 年度末 [ ]
		□家庭地域と共に育てるためにHPや通信等で発信している	当初 [C] 年度末 [ ]

※達成度 「S:目標を多く上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<b>【学力状況調査の結果】</b> (全国) 3年 ○国語、数学、理科ともに、県平均と比べると正答率が低いが、国語、数学については、前年と比較すると県平均との差が小さくなっている。 ○国語、数学については、同一集団で経年比較すると県平均との差が小さくなっており、数Aは特に差が小さくなっている。 ○数学Aの「資料の活用」領域については、県平均よりかなり高く、9割以上が理解できているが、「関数」領域に課題がある。 「与えられた資料から中央値を求めることができる」:本校91.7%(県75.2%) ○国語については、「書くこと」領域に課題がある。「相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く」:本校24.7%(県45.1%) ○理科については、「自然現象への関心・意欲・態度」の観点に課題がある。 「探究の過程を振り返り、新たな疑問を持ち問題を見だし探究を深めようとしている」:本校51.0%(県70.2%) (県) 2年 ○国語、数学、英語ともに、県平均と比べると正答率が低いが、国語、数学については、前年と比較すると県平均との差が小さくなっている。 ○国語、数学については、同一集団で経年比較すると県平均との差が小さくなっており、数学の基礎は特に差が小さくなっている。 ○英語については、「書くこと」領域、「外国語表現の能力」の観点、「3文以上の英作文」「単語の並べかえによる英作文」の問題に課題がある。 (県) 1年 ○国語、数学については、県平均と比べると正答率は低い。 ○国語については、「書くこと」領域は県平均と比べると正答率が高い。「読むこと」領域は県平均と比べると低い。 ○数学については、活用課題があり、「数量関係」領域、「数学的な見方や考え方」の観点、「百分率」「いろいろなグラフの読み取り」の問題に課題がある。	<b>【学習状況調査の結果】</b> ○将来の夢や目標を持っている生徒の割合が県平均より高い。 ○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている生徒の割合が県平均より高い。 ○勉強することは大切だと思っている生徒の割合が県平均より高い。 ○放課後などの補充学習に参加する生徒の割合が県平均よりも高い。 ○家の人や先生に認められていると感じている生徒の割合が県平均より低く、自己肯定感が低い。 ○毎日の朝食や就寝時間など、基本的な生活習慣が整っていない生徒の割合が県平均より高い。 ○家の人や学校の先生にあいさつをする割合が県平均より低い。 ○落ち着いた授業、規則を守った学校生活ができていると感じている生徒の割合が県平均より低い。 ○授業の最後の振り返り活動をよく行っていたと感じている生徒の割合が県平均より低い。 ○授業の話し合い活動の中で、人の話をしっかりと聞き、自分の考えを書いたり伝えたりすることができたと感じる生徒の割合が県平均より低い。 ○家庭学習を、積極的・計画的にできている生徒の割合が県平均より低い。 ○授業の予習・復習を全くしていない生徒の割合が県平均より高い。 ○平日1時間以上、休日に1時間以上勉強するの生徒の割合が県平均より低く、全くしない生徒の割合が高い。 ○1時間以上テレビ・ゲーム・メール等をする生徒の割合が県平均より高い。 ○携帯電話やスマホを持っている生徒の割合が県平均より高く、使用のルールを決めていない家庭の割合が県平均より高い。 ○読書や新聞を読んでいる生徒の割合は県平均より低い。

成果
○学年間で全教科の宿題の量や提出日を把握管理することで、意識して宿題に取り組む生徒が増加した。(休日全く宿題をしない 本年度10% (昨年度25%)) ○「西中タイム」等の時間を活用し、「津山チャレンジテスト」を中心に数学の復習の取り組みにより、基礎学力が向上しつつある。 ○全校で学期毎に「全校統一テスト」を実施し、基礎的・基本的な内容が定着した。 ○「週末プリント」等の取り組みにより、家庭学習時間が増加した。 ○家庭学習と授業と定期テストの連携、振り返りシートの使用、漢字練習ノート提出や漢字テストの継続的取り組みにより、家庭学習の定着と充実につながった。 ○英語では、授業に参加しやすいように、「英単語クイズ」や具体物等を利用した既習内容を連想させる活動を行うことで、授業にほぼ全員参加できるようになった。 ○コの字型の机の配置により、生徒の所属感の向上、学び合う雰囲気づくりにつながった。 ○学期毎に、メディアコントロール週間の取り組みを実施した。

課題
○活用型の問題の無回答の割合が県平均より高い。 ○知識・技能の定着が不十分な生徒が多いため、基本的・基礎的な内容に重点を置いた指導の継続が必要である。 ○落ち着いた授業環境づくりの継続が必要である。 ○授業の話し合い活動の中で、人の話をしっかりと聞き、自分の考えを書いたり伝えたりすることが苦手の生徒が多い。 ○成功体験や認められたと感じる経験が少ないため、自己肯定感が低い。 ○自分で計画的に勉強を行うことや主体的に学ぶとする意識が低い。 ○日常的な学習習慣が身につけていない生徒が多く、スマホの利用時間が多い。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
家庭学習習慣の定着について、取り組みの検証と工夫を行う。	年度末	全学年「平日家庭学習を1時間以上している」の割合を70%以上	各学年団会議で課題の把握管理と拡充(2年生での「週末プリント」の実施)、企画会で学校全体としての基本モデルパターンの作成をする。					
「理解確認」と「振り返り」の充実と工夫を図る。	年度末	全学年「授業の内容がわかる」の割合を90%以上	毎日の授業で「理解確認」を行うとともに、授業で自分の考えを書くなどの「振り返り」の時間を設ける。月1回教師自身の授業の振り返りを行う。(振り返りシートの活用)					
落ち着いた学習環境を維持し、自分の考えを他人に説明したり表現したりする場面を増やす。	年度末	全学年「授業の中で話し合いの活動をよくしている」の割合を90%以上	教科会やOJTグループを利用し、同僚性を高めるとともに、効果的な課題設定や話し合いの仕方を研究する。QUと学力のクロス集計や道徳などを利用し学級の現状を把握する。					

※達成度 「S:目標を多く上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組
○小中連携重点5項目の取り組み。 「家庭学習(宿題)の100%提出をめざす」「チャイム同時スタート チャイム同時終了」「授業の中に学び合いを」「ことばづかい」「きれいな教室」 ○連携担当(英語)による研究授業の実施。 ○小学校の研究授業への参加並びに小中連絡会での児童生徒の情報交換。 ○小中全職員による夏休みの研修会。(学校づくり・授業づくりの研修) ○中1グッドスタートのための出前授業や演奏会による交流。

保護者・地域へ理解・協力を求めること
○「家庭学習の手引き」「家庭学習のスタンダード」を基に、学級懇談や個人懇談などで家庭学習を呼びかける。 ○学期毎に「メディアコントロール週間」の取り組みや「チャレンジハッピーデー」を活用して親子で触れ合う時間の設定をする。 ○家庭学習習慣定着の取り組みをPTA活動目標に設定し、通信や「うさぎメール」など利用して啓発を行う。